

令和8年度学校評価

本年度の重点目標		<ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革 ○授業改善 ○生徒支援 		
分掌	重点目標	具体的方策	留意事項	
1	総務	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 「学校案内」「蔵高News」などの広報誌を充実させ、本校の魅力をアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の頑張っている姿や本校の良いところが、よりわかりやすく伝わるように工夫する。
		さまざまなPTA活動のサポートをする。	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員・委員と教職員の連携を密にしていく。 活動していただくことの再検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA役員委員の方々が、より負担が少なく、より意味のあるものにしていただけるようサポートしていく。 昨年度初めて実施していただいた、けやき祭(体育祭)でのジュース販売を含め、「昨年度と同じ」とせず、今年度の役員・委員の方々と検討し活動していけるようにする。
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会や大学出張講義等、進路関連行事の充実を図る。 各学年や探究チームと連携して進路探究の内容をブラッシュアップし、生徒の進路意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の適性・興味・能力を生かした的確な進路選択ができるようにする。 業者を利用することもあるが、十分な打ち合わせを行う。 	
	生徒と教員に対しての積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 教室や廊下への掲示物等を充実させて、生徒の進路選択の参考になる情報を積極的に発信する。 最新の入試動向を注視して、教員が安心して進路指導できるように、様々な統計データや役立つ資料などの情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路情報を精選し、生徒の実態や時代に合わせた指導を目指す。 	
2	教務	新しい観点別評価を改善する	<ul style="list-style-type: none"> より適切な成績評価が行えるような方法の研究と情報提供をする。 生徒の学力向上と教員の業務増加防止の両方の視点から考えていく。 簡単で、かつ、ミスが起きにくい成績処理方法を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の日常的な情報交換だけでなく、他校や中学校の情報等も積極的に収集する。 設定・運用を進めていくが、システム上でできないことも多く、その都度調整していく。
		総合的な探究の時間の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> 社会の一員であることを自覚し、それに向けて成長していく実感が持てる内容を検討する。 あいち探究活動推進事業のチームを中心に、3年間の学習計画を検討し、時間数の調整をする。 協働的な活動や講師を招いた講演会を実施するなど、外部の機関の活用を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の異動等があっても、持続可能な内容であることや、特定の教員に負担が集中しないことを考慮する。 教科、分掌との連携を密に図る。
	図書	図書館の環境整備をすすめ、有効的な利用のあり方を追求する。	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書の整理をすすめ、心地よい空間・居場所であるように環境を整える。 授業等での活用や、生徒の自主的な学習活動・読書活動を支援する。 寄贈本の受け入れや管理の環境を整える。 授業や総合的な探究の時間における調べ学習に応じた図書館利用を提案していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の関心をよぶ掲示の在り方を考える。 蔵書の整理を計画的・継続的にすすめていく。 図書館内のマナーを明確に示し、読書・学習環境の整備につとめる。
		図書委員や生徒の主体的な活動をサポートし、文化的活動を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の作品を展示・発表する機会を増やす。 展示企画等の充実を図る。 図書委員へ役割分担を具体的に示し、活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が無理なく参加し、活動できる日程や内容できるように配慮する。
3	特別活動	学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的にかつ協力して活動に取り組む姿勢を養う。魅力ある行事の実施	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や委員会の活動を促し、生徒が自主的、かつ協力的に取り組むことができるような環境を整える。魅力ある行事実施に向けて、生徒との対話を通して、内容や質の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や実行委員会、委員会の役割を明確にし、意欲的に行動しやすい環境を作る。生徒の意見が反映される環境づくり。
		学校内外への情報発信。	<ul style="list-style-type: none"> HP、生徒会だより、校内掲示板の活用及び整備。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの活用、校内掲示板の掲示の仕方に工夫する。掲示板の新設。
	保健	教育相談における生徒支援のための情報共有と対話への効果的な活用(RAMPS)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒が抱える心身の諸問題に対し、全職員で連携を図り、生徒・保護者一人一人に寄り添う対応を行う。 SC,SSW等の活用と外部機関との連携を図る。支援部会でのケース会議をもとに、その対応や対策を検討・実践し、問題解決の一助とする。 オンライン授業の実践について制度の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援に関する問題に対して家庭と密に連絡を取り、守秘義務を鑑みながらより良い対応を検討・実践する。 外部機関とは、SC,SSW,春日井市子ども支援課、医療機関、児童相談所など。 RAMPS結果から生徒の実態把握に努め、早期問題解決に繋げる。
		ゴミの減量 分別の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ収集にお金がかかることを周知し、ゴミの持ち帰り、分別の徹底を図る。 ペーパーレス化の推進。 ペットボトルの分別回収の徹底。 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃道具の保管場所の明示、ゴミ処理方法、回収場所の明確化を図る。 ICTを活用し、紙の資料を減らすと共に、リサイクルや節約の推奨。
生徒指導	交通安全の励行 交通事故の減少	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故件数の減少 登校時、下校時の交通指導と身だしなみ指導など注意喚起を促す。 集会時やSTを利用して、交通安全について呼びかけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車の乗車マナーを遵守させる。 被害者のみならず、加害者になる可能性について理解させる。 交通事故について調査を進め経年比較をする。 ヘルメット着用の推奨 	
	情報モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルについて講演会を実施する。 集会時やLT・STを利用してモラルの向上を図る。 アンケートを通して、スマートフォンなどの情報機器の利用状況を把握し、適正な利用ができるように理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報等の流出をさせない、ネット上で誹謗中傷をしないなど情報に関するモラルやマナーを理解させる。 情報モラルに関する知識を深め、規範意識の向上を図るとともに、事件に巻き込まれないように指導する。 	
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻・早退・欠席数の減少に努める。 授業の始まり等の時間を守らせる。 高校生としてふさわしい髪型や服装規定を遵守した容姿にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間や生活リズムを守ることを日常から指導する。 保護者と連絡を密にして、欠席、遅刻、早退の減少に努める。 身だしなみや言動について日常から指導する。 	
学校全体	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 先生と生徒のウェルビーイングを重視 「一時間省く」+「一時間かける」で余白を生む 業務の精査と改善により、学校全体にゆとりを創出 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒へのより良い教育を実現するため、教員の長時間勤務の是正、ウェルビーイングの向上に努める。 注力するところを見極める。 PDCAサイクルを意識して業務を見直し、効果的な取組の共有を図る。 	
	授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視しつつ、探究的な学びを推進 主体的に問い、対話を通して考えを深める授業づくり ICT活用と情報リテラシー(AI活用含む)の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の実施状況の評価し、スクールポリシーに基づき改善を図る。 生徒の主体的な向学心を刺激する、授業改善に取り組む。 ICTを活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する。 	
	生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> 小さなサインを見逃さない支援体制(RAMPSの活用) 「みる・気づく・受け止める・見守る」を教員全体で共有 生徒、保護者に継続的に寄り添い、必要に応じて後押しする 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を、安全・安心・快適に送れるよう、生徒の心身の健康状態を丁寧に把握する。 一人一人の教育的ニーズを把握し、個々の持つ力の伸長や困難さの軽減と改善のため、必要かつ有効な支援や指導を行う。 	
学校関係者評価を実施する主な評価項目		重点目標への取組みと達成度、各分掌の取組みと達成度		